東京農工大学
科学博物館ニュース速報
Nature and Science Museum
東京農工大学
科学博物館

No. 27 (A special issue)　December 1, 2016　　第 27 号 (特別号)　2016 年 12 月 1 日

創基 130 周年記念式典が盛大に執り行われました

▶ 梅田倫弘（科学博物館長, 工学部教授)

今から遡ること，130 年前の明治 19 年 10 月 24 日，東京は豊島郡王子西ヶ原の地に，農商務省農務局蚕病試験場が移転し，それと同時に参考品陳列場が併設されました. これが科学博物館のルーツが誕生した瞬間でした. 以来，母体となる組織構成, 名称は幾度となく変わっていき, 展示施設も, 参考品陳列場から標本室, 繊維博物館と 3 度の名称変更を経て現在に至っております. またその面積は, 発足当初, 200 平米程度であったものが昭和 44 年からの現在の建物への移転を契機に拡張し, 現在では 2700 平米となっています.

130 年という歴史は，日本国内の博物館を見たとき，最も歴史がある東京国立博物館の創設が明治 5 年（1872 年）ですから，それから遅れることわずか 14 年余りであり，本館が国内では長い歴史を持つ博物館と自負できるのではないでしょうか.

そこで，これまでの歴史を振り返り，将来に向けた大きな飛躍のために，創基 130 年を記念し，11 月 13 日（日）東京農工大学工学部グリーンホールにおいて 160 名あまりの来賓をお招きして東京農工大学科学博物館創基 130 周年記念式典を挙行いたしました. 当日は, 文部科学省大臣官房神山審議官, 日本博物館協会銭谷会長を来賓としてお招きしてご挨拶をいただきました，特に，神山審議官からは松野博一文部科学大臣祝辞をいただく光栄に浴すことができました. また, 記念式典後, 記念講演として，ユニバーサルデザイン研究所赤池学氏より「自然に学ぶ”農芸品”の時代」と題して，大変興味あるご講演をいただきました.

ここでは, 記念式典の雰囲気を少しでも感じていただくために，学長式辞および大臣祝辞を再掲させていただくとともに，スナップ写真を掲載します.

今後も，集積された学術資料を次世代に引き継ぎ, 同時に大学の発展に寄与できる博物館として邁進していく所存です. 大学の教職員，学生の皆様方，これまで博物館活動にご協力いただいたボランティアの皆様, そして多くの市民の皆様のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます.

式典会場の様子．多くの方々のご参加をいただきました

松永是学長　式辞全文

皆様，本日はご多用のところ東京農工大学科学博物館創基 130 周年記念式典にご参集いただき, 誠にありがとうございます. 本日の式典において，今まで本学および科学博物館の発展にご尽力いただきました皆様方にあらためて感謝する機会を得ることができ, 大変嬉しくまた光栄に思っております.

式典は松永学長の挨拶で幕を開けました

本学は，一昨年創基 140 周年を迎え，150 周年に向けてさらなる改革に取り組み，「世界が認知する研究大学」を目指しています．そのような中，全国の国立大学附属の博物館の中でもユニークな博物館として一目置かれている東京農工大学科学博物館が，本年をもって創基 130 周年を迎えることになりました．本学工学部の前身組織である農商務省農業局蚕病試験場が，明治 19 年に王子西ヶ原に移転した時に開設された「参考品陳列場」が科学博物館のルーツとなっています．当時としては最先端の蚕糸，養蚕に関する資料が展示され，養蚕業の理解と普及に貢献したと考えられます．

その後，母体となる組織が蚕業講習所となり蚕業に関する伝習を行う組織となって，参考品陳列場は，「標本室」と改称され，以後，東京高等蚕糸学校，東京繊維専門学校，そして東京農工大学となっても，様々な養蚕，繊維などの資料が標本室に保存・展示され，教育活動に利用されてきました．そして，昭和 27 年，博物館法の制定を機に，標本室を基礎として繊維学部繊維博物館が，東京国立博物館や国立科学博物館などとともに，博物館相当施設として認定され，博物館としての産声を上げることになりました．その後，昭和 44 年に現在の建物に移転し活動の活性化が進み，昭和 49 年に一般公開となりました．そして平成 20 年には，繊維博物館と農学部施設の全学統合化が実施され，東京農工大学科学博物館と 4 度目の改称がなされました．

さらに，平成 24 年の耐震改修工事の完工によるリニューアルオープンが行われたことは，皆様の記憶に新しい所です．このリニューアルを機会に，4 つのビジョンの策定によって大学附属博物館としての立ち位置と方向を定め，それに基づいて様々な活動を展開してきました．例えば，本学教員の研究成果を市民の方に分かりやすくまとめて数ヶ月にわたり公開展示する企画展，学部 1 年次学生の博物館見学を通した自校教育，博物館ボランティアや友の会に所属する市民のみなさんと博物館学生支援団体との交流を通した学生教育などです．これらの活動を通して，リニューアル後の年間入館者数は 23,000 人前後となり，リニューアル前に比べて 1.5 倍以上と大幅に増加していると聞いております．

以上のように，本館は参考品陳列場，標本室，繊維博物館，科学博物館と，130 年の間に 4 度の名称変更を経験しておりますが，それらの施設に関係した方々に通底するのは，多大なる努力・情熱を傾けて学術資料を収集し，次世代に受け渡す強い意志を持っていたことではないでしょうか．まさに人類の宝としての学術資料を後世に残すことの重要性を私たちは再認識することができます．

本学は，今後 6 年間の中期目標として，卓越した成果を創出している海外大学と伍して，世界が注目する成果が得られる教育研究を推進する道を選択し，これまでの教育研究実績を加速させる全学的な努力に邁進しているところです．それは正に，本学の前身組織の一つが養蚕業の教育研究を通して明治期の我が国の近代化に貢献した状況を彷彿とさせるものと考えます．それらの教育研究成果は，先ほどご紹介しましたように，参考品陳列場，標本室において広く社会に公開して参りました．同様に，今後，本学が海外の大学と伍して創出する研究成果を蓄積し公開する場として科学博物館が貢献できるものと期待しております．

最後になりましたが，皆様のご健勝とご発展を祈念するとともに，今後も本学ならびに科学博物館に対して変わらぬご理解・ご支援を賜りますようお願いして挨拶とさせていただきます．ご清聴ありがとうございました．

松野文部科学大臣 祝辞全文

本日，東京農工大学科学博物館の創基一三〇周年記念式典が，このように盛大に開催されますことに心よりお慶び申し上げます．

東京農工大学科学博物館は，明治一九年，貴学工学部の前身組織である農商務省農務局蚕病試験場に併設された「参考品陳列場」を起源とし，養蚕業の理解と普及に貢献され，その後は「繊維博物館」と名を改め，繊維の専門博物館としての役割を担ってこられました．

平成二十年に他の施設と統合し，「科学博物館」として，大学内に所蔵されている学術資料の有効活用を図り，大学の現在と未来を発信する新しい博物館として活動されていると伺っております．

子供たちの理科離れや科学技術への関心の低下が指摘される中，貴館では，大人から子供まで楽しんで学ぶことができる様々な学習支援プログラムの実施や繊維機械類の動態展示などを通して，日本の科学技術について理解を深めることができる活動を長年に渡り取り組んで来られました．

こうした活動は，社会教育を通じて，国民の科学技術リテラシーの向上に大いに寄与するものであり，イノベーション創出に向けて一層の御活躍を期待しております．

文部科学大臣式辞を代読された，文部科学省大臣官房審議官の神山修氏

祝辞をいただいた日本博物館協会会長・東京国立博物館長の銭谷眞美氏

博物館 130 年～現在，過去，そして未来～と題して梅田館長が講演を行いました

一方で, 博物館は, 地域課題の解決, 地域振興・再生に貢献するコミュニティの中核としての役割も重要であります. 地域の絆をつなぎ，地域貢献を担う拠点としても，重要な役割を担っていただきますようお願いします.

結びに, 本日お集まりの皆様の一層の御活躍と東京農工大学科学博物館のますますの御発展を祈念いたしまして, 私からのお祝いの言葉とさせていただきます.

記念式典終了後の科学博物館見学の模様．繊維機械動態展示をご覧いただきました

支援団体より

「もの」から「こと」へ・・・友の会へ期待

友の会会長　国眼孝雄 (本学名誉教授)

参考品陳列所から科学博物館へ 130 年の歴史を振り返るとき, その時々の関係者の努力と工夫に敬意を払わずにはいられない. 博物館を一層盛り上げるために博物館の支援団体の一つである友の会も一層貢献したいと思う.

先日，訪日外国人旅行者が年間 2000 万人を超えたとのニュースが報じられた. これは観光庁が 16 年度の目標にしていた数値を年度途中に達成したことになり，さらに 4 年後の 20 年には 2 倍の 4000 万人を目指しているとのことである. 訪日客は 13 年に 1000 万人を超えた後，順調に拡大を続けている. これにはビザの緩和など戦略的な影響もあろうが，外国には日本に魅力を感じている人が多数存在することを意味する. 彼らはいったい何を目当てに訪日するのであろうか. つい最近までは安心安全な日本の「もの」に魅力を感じ, 爆買いと称して手当たり次第に買い，母国に持ち帰った. しかし最近の傾向は以前と異なり，自分の趣味や関心ごとを日本で体験し，達成感を得るという「こと」消費へと移行している. 特にリピーターにはその傾向が強いという.

翻ってわれわれ自身も, ものが乏しかった時代の「もの」へのあこがれから, ものが満たされた今, 心安らぐ「こと」への期待, すなわち作り, 楽しみ, 達成し, さらに向上したいという志向性を高めている. まさに友の会の活動を後押しする力強い風が吹いていると言えよう. そのようなニーズをどのように取り込んでいくか, 各サークルの知恵や工夫, 行動に期待したい.

ユニバーサルデザイン総合研究所長の赤池学氏による「自然に学ぶ”農芸品”の時代」と題した基調講演が行われました

科学博物館でのボランティア活動を振り返って

繊維技術研究会長　壁矢久信 (本学名誉教授)

科学博物館創基 130 周年の記念式典が挙行されましたこと，心より祝福申し上げます. 参考品陳列場，標本室，繊維博物館，そして科学博物館への変遷の過程で，多くの方々のご尽力があったことに思いを馳せずにはいられません.

さて，我々繊維技術研究会の誕生は平成 11 年末であり，平成初期から開かれた博物館, 社会人教育の場としての活動が叫ばれていたことが契機でございました. 大学における教育研究は，社会の要請を受けて変遷をしていきますが，当時の学科改革により, 繊維プロパーの学科はなくなっておりました. 一方, 文化庁では伝統文化の継承・発展や, それを支える人材の養成・確保の必要を力説しておりました. そのような中で，本研究会が誕生を致しました.

初期の活動は，大型繊維機械の動態展示でしたが，調査研究も並行して行ってきました. 団体を含む入館者に対しての解説を含め，技術相談にも対応してきました. 本会会員は当初から本学 OB のみならず，信州大や岐阜大 OB 等の支援も受けてまいりました. この場を借りて, 謝意を表します.

130 周年記念グッズ

本館では，創基 130 周年を記念して各種オリジナルグッズを作成致しました. 販売は 1 月より行う予定です. 記念ポストカードはすでにお配りしておりますので, 受付までお声がけください.

錦絵にみる蚕飾まにゅある　かゐこやしなひ草

養蚕を題材とした錦絵「かゐこやしなひ草」を収め，2002 年に頒布された初版を，14 年の時を経て再販しました．中世の養蚕のようすが分かる貴重な一冊です．（頒価 1000 円）

タペストリー

本館のエアジェット織機で生産した布をタペストリーにしました．絵柄は本学の前身である農務省蚕病試験場を色鮮やかに描いた錦絵です．当時，参考品陳列場と呼ばれた本館も見ることができます．(頒価 1500 円)

科学博物館 DVD シリーズ 1「繊維機械動態展示映像」
本館の誇る繊維機械の動態を収めた DVD です．さまざまなアングルから，繊維機械の機構を観察できる構成です.

科学博物館 DVD シリーズ 2「糸繰りの技　真綿作りの技」
シルクライフ 21 の協力により作成した，現代に伝わる製糸・真綿作りの実演を収めた DVD です．（頒価 1000 円）

記念ポストカード

本館の過去と現在を伝える絵・写真をポストカードにしました．題材は科学博物館の四季，前身の高等蚕糸学校での女子学生 (女工) の実習, そして本学西ヶ原時代を描いた錦絵です.

「科学博物館ニュース速報」第 27 号 (特別号)
発行日：2016 年 12 月 1 日
編集：科学博物館ニュース速報編集委員会
（梅田倫弘，斉藤有里加，飯野孝浩，北川和幸)
発行：東京農工大学科学博物館
連絡先：kahaku@cc.tuat.ac.jp 042-388-7163